



音楽でわかる税金百科 ③

~ TARIFF ~

税理士・公認会計士

ハツ尾順一

租税法の授業では、学生に対して「タリフ（関税）」については殆ど喋らない。強いて話すとすれば、関税は外国から輸入される貨物に対して課される一種の「消費税」であり、そして、関税には、「保護関税」（国内産業の保護を目的）と「財政関税」（財政収入を目的）とがあるが、現在では、「保護関税」の見地から課税されていると。

しかし、2025年1月20日に米国大統領に就任したトランプ氏は、「私にとって辞書の中で最も美しい言葉は、タリフだ」と述べ、各国からの輸入品に対して、追加関税を公言し、世界経済を混乱させたのである。

ところで、米国の連邦税の税収で、個人所得税は、全体の約50%を占めている。この個人所得税を減税することは、トランプ氏の選挙公約である。そのために、米国は、同盟国を含めて多くの国に対して、関税率を引き上げたのである。したがって、トランプ氏の関税は、「財政関税」なのである。ところが、今までの関税は、全収入の2%しかなかった。その関税を引き上げて、50%の個人所得税の代わりにすることは、誰が考えても不可能である。米国の1890年代は、関税、物品税（内国消費税）で税収の殆どを賄っていたという。この「米国のよき時代」の思いをトランプ氏は、断ち切れないのであろう。

そこで、警告の意味として、2025年に「タ

リフ」という歌を作ったのである。歌詞では、タリフの起源は、メソポタミア エジプトギリシャから ローマへと綴っているが、ここでは、最後の4コーラスのみ紹介する。

アメリカと中国 貿易戦争で タリフは
政策手段に

タリフマンのトランプ

ディールを好み タリフはカード

タリフ タリフ 自由貿易どこへゆく

歴史は繰り返す タリフは繰り返す



（YouTubeで歌が聴けます。）

なお、2026年2月20日、アメリカ連邦最高裁判所は、トランプ政権が「国際緊急経済権限法（IEEPA）」に基づいて発動した包括的な「相互関税」を、「大統領の権限を逸脱している」として違法（無効）とする判決を下した。この判決は、米政権の「米第一主義」に基づく関税政策に大きな打撃を与え、世界経済に大きな影響を与えた。

ただ、自動車や鉄鋼など他の法律（通商法122条など）に基づく個別的な関税には影響しないという。これからトランプのタリフは、どこに行くのか、世界は、戦々恐々として注視しているのである。